

人が衣服を着装した時に生じる衣服気候内の不感気動については、多くの著書に $25 \pm 15 \text{ cm}^3/\text{sec}$, もしくはこれに近い値が示されている。私共は数年前、たまたま男子服装の衣服下気動を測定する機会を得て、安静時の上衣下の気動が $2 \sim 4 \text{ cm}^3/\text{sec}$ であったことから、通説となっている数値が大き過ぎるのではないかの疑問を持ったことを附言した。その後、気動測定機の感度の増強を試み、これを用いて同一環境下における酷似した体格を有する女子数名で、試作したスカートについてスカート内における気動の測定を行ったので、その結果について報告する。

スカート内の気動は、起立静止時で、タイトスカート $2.84 \pm 0.17 \text{ cm}^3/\text{sec}$, セミタイトスカート $5.45 \pm 0.30 \text{ cm}^3/\text{sec}$, フレーヤースカート (6種類) では $5.23 \pm 0.16 \text{ cm}^3/\text{sec} \sim 6.39 \pm 0.48 \text{ cm}^3/\text{sec}$ であって、そのデザインの違いによって気動に相違のあることが明らかとなった。また、これらの測定値が正しいとすれば、今迄通説として示されている気動値が大きいことも理解されよう。

次に動作時の気動は、その場で足踏みの場合、タイトスカート $6.13 \pm 0.3 \text{ cm}^3/\text{sec}$, セミタイトスカート $6.66 \pm 0.87 \text{ cm}^3/\text{sec}$, フレーヤースカートでは $7.65 \pm 0.3 \sim 8.72 \pm 0.63 \text{ cm}^3/\text{sec}$ であり、しかもこの場合、ゆとりの大きいもの程気動が大きくなるとは限らず、適当なゆとり量のものが大となることが明らかとなった。

ブラウス、その他の上衣についても不特定に測定したが、 $1.80 \pm 0.06 \sim 6.85 \pm 0.42 \text{ cm}^3/\text{sec}$ であり、いづれも通説よりも小さい値であることが明らかとなった。